

思考力と伝える力を育てる学習指導の工夫

ータイトルシークエンスの活用を通してー

1 設定理由

本校の生徒は連絡事項を伝える場面では、ほとんどの生徒が問題なく発表することができる。しかし、授業など自身の考えを発表する場面では、自身の考えを上手く説明できないことが多い。これは自身の考えがまとまらず、どう伝えるのが良いか不安に感じていることが理由として考えられる。

今回、タイトルシークエンスを活用することで、生徒の思考力と伝え合う力を育てたいと考えた。絵コンテを描く活動も含まれるので、文章を書くことが苦手な生徒も、活動に参加しやすいと考えられる。また、活動を通して根拠をもとに内容をまとめる力を高め、それを発表することで自身の考えを伝える力を育てられるだろうと考える。これまでの、主題の読み取りを重視する読解中心の授業からの脱却を図り、表現活動を通し、生徒の思考力を高めたいと考え、本単元を設定した。

2 研究仮説

自らの考えをまとめ、伝え合うに活動取り組むことで、自らの考えをまとめ、自他の考えを伝え合う力を高めることができるだろう。

3 研究内容

対象：中学校 2 学年

学習材：「物語を読み解くーメディアの解釈ー」『走れメロス』

(1) タイトルシークエンスを作成する中で読みを深めるための指導方法の工夫

(2) 『走れメロス』を紹介するために必要な、理解を高めるための単元の工夫

4 結論

(1) タイトルシークエンスを作成する活動を通して、根拠をもとに読みを深めることができた。

(2) タイトルシークエンスを活用することで自分の考えをまとめ、自信を持って自他の考えを伝え合うことができた。

思考力と伝える力を育てる学習指導の工夫

ータイトルシークエンスの活用を通してー

1 主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

本校の生徒は連絡事項を伝える場面では、ほとんどの生徒が問題なく発表することができる。しかし、授業など自身の考えを発表する場面では、自身の考えを上手く説明できないことが多い。これは自身の考えがまとまらず、どう伝えるのが良いか不安に感じていることが理由として考えられる。こうした実態から、目的に応じて自身の考えをまとめる思考力、自身がまとめた内容について、伝え合う力を育てることが必要だろうと考えられる。

(2) タイトルシークエンスについて

タイトルシークエンスとは、読み込んだ文章について4コマ+タイトルの1コマ計5コマを使い物語の内容をまとめ紹介する活動である。今回の活動ではタイトルの1コマを省いたワークシートを使用した。

今回、授業を行う生徒たちはこれまで、読んだ詩の内容を絵に描く、読んだ小説ふさわしい表紙を作るなど、読み味わった内容を絵にする活動にとりくんできている。そのため、絵コンテを描く作業があるタイトルシークエンス作りは、とりくみやすい活動だと考えた。

今回作成したタイトルシークエンスは、選んだカット一つひとつに、そのカットを選んだ理由をまとめる説明文章のスペースをつけた。ただ、漠然とカットを選ばせるのではなく、場面を選ぶふさわしい理由を考えさせることを目的としたものである。

これまでの一般的な場面読みでは物語の内容を理解し、登場人物の心情理解をするだけにとどまると反省される。しかし、タイトルシークエンスを作成する活動では、場面一つひとつに注目し、作品を構成する活動にとりくむ必要がある。そうすることで子どもたちがつかんだ内容を反映し、子どもたち一人ひとりの考えを引き出すことができるだろう。

	絵 コン テ		解 説 文 章	タ イ ト ル シ ー ク エ ン ス の 活 用
場 面				

2 研究仮説

タイトルシークエンスを作成する活動を通して、自らの考えをまとめ、伝え合う力を高めることができるだろう。

3 研究内容

対象：中学校2学年

学習材：「物語を読み解くーメディアの解釈ー」『走れメロス』

- (1) タイトルシーケンスを作成する中で読みを深めるための指導方法の工夫
- (2) 『走れメロス』を紹介するために必要な、理解を高めるための単元の工夫

4 研究の実際

- (1) 単元名 タイトルシーケンスを使って『走れメロス』の紹介をしよう。

- (2) 単元の目標

タイトルシーケンスを活用して『走れメロス』の紹介をしようとする。

(国語への関心・意欲・態度)

タイトルシーケンスを作成する中で必要な場面を選択することができる。

(読む能力)

- (3) 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力
自らが作成したタイトルシーケンスを活用して、『走れメロス』の紹介をしようとしている。	タイトルシーケンスを作成するのに必要な場面を、物語の中から適切に選択している。

- (4) 単元の指導計画（全8時間）

次	時配	学習内容と活動	指導上の留意点（○）評価規準（※）
一次	1	○タイトルシーケンスについて知る。 ○教科書 P64～75「物語を読み解く」の内容を読む。 ○タイトルシーケンスの作り方を学ぶ。	○『走れメロス』でもタイトルシーケンスを作ることを確認する。 ※「物語を読み解く」の内容を読もうとしている。【関心・意欲・態度】 ※タイトルシーケンスについて学ぼうとしている。【関心・意欲・態度】
二次	2	○『走れメロス』の音読を行い魅力ある場面について線を引く。	○印象に残った場面を確認して教科書に線を引く。 ○段落で読み、読み方の確認を行う。 ※音読を聴こうとしている。【関心・意欲・態度】 ※印象に残った場面について教科書に線を引こうとしている。【関心・意欲・態度】

	3・4	○メロスの心情の変化について心情曲線を用いてまとめる。	○文章中のメロスの心情の変化を心情曲線にしてノートにまとめる。 ※文章中からメロスの心情が分かる部分を探している。【読むこと】
三次	5 6	○『走れメロス』の見どころを四つ決める。 ○『走れメロス』の見どころをもとにタイトルシークエンス作成する。	○文章中から『走れメロス』の魅力ある部分を探す。 ○『走れメロス』をまだ読んだことのない人に向けた内容でタイトルシークエンスを作成する ※タイトルシークエンスに向けて作品の魅力ある部分をまとめている。【読むこと】
	7	○作成したタイトルシークエンスについて班で発表する。 ○タイトルシークエンスの魅力となる理由を解説文章から探し該当する箇所に線を引く。 ○交流を通しての感想を発表する。	○タイトルシークエンスの内容を読んで見どころに選んだ理由を解説文章から探し線を引く。 ※タイトルシークエンスに描かれた魅力を紹介している。【読むこと】
	8	○前時の交流を通して気がついたこと、考えが変わったことをまとめる。 ○まとめた内容を発表する。	○タイトルシークエンスの用紙を確認して、ノートに気がついたことをまとめる。 ※ノートに気がついたことをまとめている。【関心・意欲・態度】

(5) 単元の工夫、指導方法の工夫

一次

【『走れメロス』を紹介するために必要な、理解を高めるための単元の工夫】

教科書 P64～75「物語を読み解く」の内容からタイトルシークエンスについて学ぶ

学習へとりくむ前にタイトルシークエンスを用いて物語の紹介を行うことを説明した。これからのとりくみについて示すことで学習への意識を高めることができた。

タイトルシークエンスを活用することで、メディアの特性を生かした紹介ができることを学んだ。これまで文章をもとに紹介・批評することを中心にしてきた子どもたちは新たな手法について知ることができた。

タイトルシークエンスを活用する中で、場面を工夫して選ぶことで内容について多様な紹介ができることを学んだ。授業において文章で感想や意見をまとめる時に、多くの生徒が同じよ

うな内容になっていることが多く、独自の考えをまとめることを苦手としていた生徒が多様な紹介をできることを理解できた。

生徒の感想

自分の考えをまとめるのが大変そう。

今までやったことがないことなので楽しみ。

絵を描くのがむずかしそう。

生徒への支援

様子を観察したところ、これまでにないとりくみに対して、興味を持っている様子が見られた。しかし、初めてとりくむ不安として、自分の考えをまとめることや、絵として描くことに難しさを感じている生徒もいた。

自分の考えをまとめることについて、授業の中で考えをまとめる時間を設定すること、どんなことをこれからの授業でやっていくのかを示した。絵に表すことについて、上手く描くことができたかどうかではなく、一人ひとりが読みとった内容について描くことができていることが大切であると説明をした。

二次

【タイトルシーケンスを作成する中で読みを深めるための指導方法の工夫】

『走れメロス』の音読を行い魅力ある場面をまとめる

『走れメロス』本文を音読する中で物語の魅力ある場面について線を引く活動にとりくんだ。音読をする前に線を引くことを示したことで、目的を持って本文を読むことができた。

魅力ある場面についてまとめることで、魅力ある場面では登場人物の心情が変化していることを確認した。魅力ある場面が物語において重要な場面であることに気がつくことができた。物語にある多くの場面から何となく選ぶのではなく、魅力的に感じた場面を選ぶという意識を持つことで、物語にとって重要である場面を探すことができた。

◎生徒が魅力ある場面としてまとめた内容

- ・メロスが激怒した場面
- ・セリヌンティウスとの約束を守った場面
- ・王を仲間として受け入れた場面

印象深い冒頭場面やクライマックスの場面を多く選んでいる。

魅力ある場面として選んだ理由

激怒した場面を選んだ理由

メロスの性格がわかるから 物語の始めの部分だから 激怒したという言葉が気になったから

登場人物に注目していることや、書かれている言葉に注目していることがわかる。

セリヌンティウスとの約束を守った場面を選んだ理由

二人の友情が表れている場面だから 物語のラストシーンだから 感動する場面だから。

人物の友情に注目していることが分かる。物語の流れに注目して、選んでいることがわかる。

王を仲間として受け入れた場面を選んだ理由

王が二人を認めた場面だから 王様の心が変わった場面だから 二人の優しさがわかる場面だから。

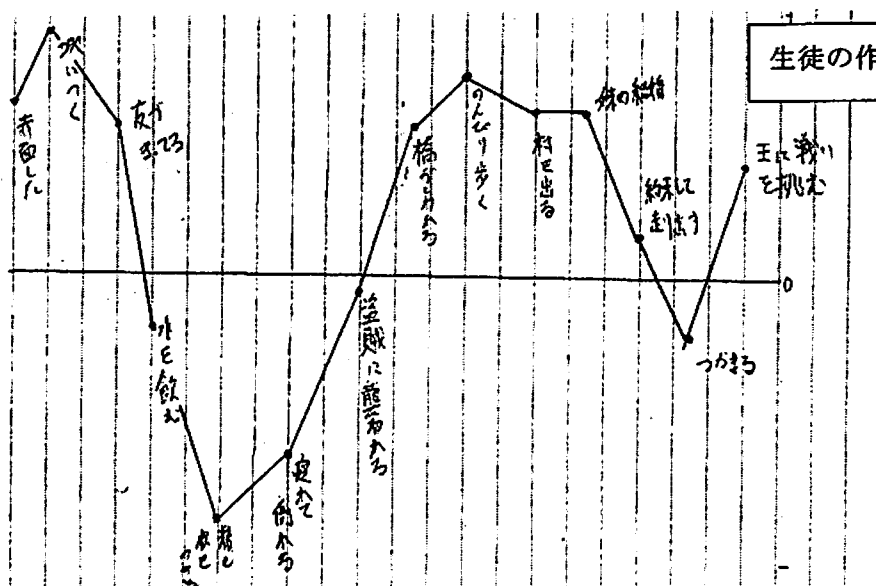
物語がハッピーエンドに向かう場面を選んでいる。王の改心の場面から、三人の間芽生えた信頼について注目していることがわかる。

生徒達が選んだ場面は、物語の初めと終わりに多いことがわかる。生徒が挙げていた場面はどれも人物の心情が表れていることがわかった。

【タイトルシーケンスを作成する中で読みを深めるための指導方法の工夫】

物語の全体像をつかませるために、メロスの心情曲線をまとめる

物語の全体像をつかませるために、メロスについて心情曲線を書かせた。この活動をととして事前にタイトルシーケンスで抜き出す場面についてまとめることも同時に行った。まとめた心情曲線については個人活動→班活動→学級での活動となるように活動の場を広げることで、生徒達は物語に多様な見方ができるとわかった。



生徒の作成した心情曲線

物語の全体像をつかませるために、ノートに心情曲線を描かせた。

完成した心情曲線をみると、多くの生徒が物語の全体像をつかめていることがわかった。完成した心情曲線を視覚化しお互いに共有することで、生徒達は物語の見方やとらえ方に違いがあることに気づいた。

三次

『走れメロス』の中でタイトルシークエンスに使う魅力ある場面を四つ決める

前時からまとめていた内容をもとにタイトルシークエンスに使う魅力ある場面を決定した。これまでの活動で魅力ある場面、心情の変化が現れている場面をまとめているので多くの子どもたちがスムーズに場面を選択することができた。選んだ場面において多くの生徒が自分の捉えた場面について選んだ根拠をまとめることができた。

【選ばれていた場面】

- ・メロスと王が対峙する場面
- ・メロスが走っている場面
- ・セリヌンティウスと抱擁する場面
- ・結婚式の場面

最初に選んだ場面とは違う場面を、生徒が選ぶようになっている。物語の全体像について共有したことで、物語のとらえ方が広がったのがわかる。

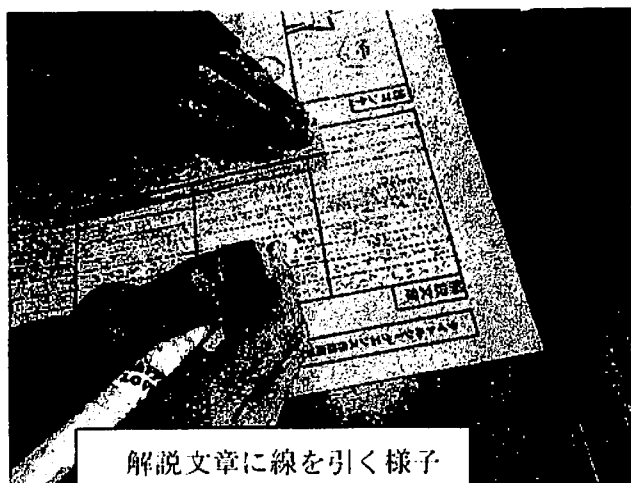
設定した場面について、なぜこの場面を魅力ある場面として選択したのか解説文章にまとめる。場面を選ぶことはスムーズにできたが、選んだ理由を文章にまとめるのに苦労した生徒が多かった。魅力ある場面の理由をまとめるように支援することで文章にまとめることができた。

生徒の作成した解説文章

解説文章	1	3
この場面は、二年ぶりの友の再会ですが、その再会には邪知暴虐の王を除くために、メロスが友セリヌンティウスを人質に差し出すという再会となってしまう。ここから物語の中でのメロスの心情の変化や勢いが大きく表れ、これから大団円場面だから、	2	セリヌンティウスが縄に打たれ、メロスが走り出そうとしているところ、これから続く物語の期待がふくらむ場面。メロスは友のため、自分を守るために、セリヌンティウスは友を信じて、メロスを助ける決意が見れるからだから。
		4

タイトルシークエンスについて互いに読み合い、解説文章に示された魅力ある部分について線を引く

作成したタイトルシークエンスを班内で読みあい。魅力ある部分をまとめた解説文章について線を引いた。お互いの作品について読みあい、解説文章について線を引くことができた。互いに作成タイトルシークエンスについて真剣に読み、その内容について理解しようと努める姿がみられた。



解説文章に線を引く様子

タイトルシークエンスを読み合い、互いに感想や意見を伝える



読みあった感想や意見を伝える

読みあった互いのタイトルシークエンスについて感想をまとめ、お互いに意見を伝えた。意見を伝えている中で、気がついたことや感じた事を伝えることができた。意見を伝えることでお互いの考えを共有し、いろいろな考え方や伝え方について知る様子が見られた。

選んだ場面の違いや、初めてメロスを知る人の立場に立って、文章をまとめることの難しさが、感想として挙げられた。

交流したことで自分の考えや物語の見方が変わったことについてまとめる

お互いの考えや意見を交流することで自分の考えやとらえ方について知ったことをまとめる。子どもたちどうして考えや気がついたことを交流することで物語のとらえ方や、印象に残った場面が違うことを知ることができた。理解の高い生徒については特にそうした様子が見ることができた。

お互いの作品の違いについて知ること、物語の内容について考えを広げ深めることができた。



感想をまとめる様子

生徒の感想と変容

(1) タイトルシーケンスを作成する活動を通して、物語の内容について思考し、理解を深める事ができた。

感想

タイトルシーケンスを作ってみて物語から場面を抜き出すのは簡単だったけれど、解説文章を書くのは難しいと思いました。それに解説文章を書いて、改めて何で自分はこの場面を選んだのか、明確になりました。あと、班で読み合うのをうれしそうに思いました。各、自分の場面もよがうで読んでみて、皆のいろいろ

解説文章を書く活動を通して、内容への理解が深まり、場面を選べた根拠が明確になったことがわかる。

生徒の感想①

感想

私は、このタイトルシーケンスを作ることによって『走れメロス』について理解を深めることができた。特に、解説文章についてはどうしてこの場面を選んだのか、とを伝えるために、場面の説明に加えて、自分なりの場面、解釈を考えてみる。また、他の人のタイトルシーケンスやタイトルシーケンス作りを通して『走れメロス』に同じものは一つもなく、おもしろかった。について理解を深めている。

生徒の感想②

を作るときは、場面と対して説明し、自分の感想なども添えて作るときは、要点をまとめて特に印象に残った所を伝えることができた。

感想

タイトルシーケンス下班の人達のを聞いて自分の考え方が少し変わった。みんな作りがまとまっていたし、大事な部分がしっかり書かれていたのが良かった。

生徒の感想③

タイトルシーケンス作りを通して作品への読みが変わっている。

感想から

活動にとりくむことで、物語の内容について思考し、場面を選ぶ根拠を明確にすることができた。根拠を明確にすることで、内容について理解を深めることができていた。また、他者との交流を通じたことで物語について考え、作品への読みが変化していることがわかった。

(2) タイトルシークエンスの活用を通して、どのように表現すれば相手に伝えることができるか考えを深めることができた。

感想 私はこのタイトルシークエンスを作ることによって、ストーリー層走れメロスについて理解を深めることができた。特に、解説文章については「どうしてこの場面を選んだのか」ということを伝えるために、場面の説明に加えて、自分なりの場面の解釈を考えてみることができた。

また他の人のタイトルシークエンスをみると、とても詳しく説明されていてわかりやすいと思ったり、同じものはつまずいておもしろかった。みんなこの走れメロスでもタイトルシークエンスを作るときはもっと場面を詳しく説明したいと思ったり、要点をまとめて特に印象に残った所を相手に伝えるために工夫しよう、と、考えを深めている。

生徒の感想④

感想 物語がどう始まったかを詳しくしたか、たのびで、物語の始まりを書いたけど、この最初の重要な場面を読み手にどう説明しようかととても悩んだ。他の人のと見ると他の人は物語の始めから終わりまでを書き、それをわかりやすく説明されていて、すごいなと思った。

読み手に物語の導入をどのように伝えたら良いか考えている。

生徒の感想⑤

感想 タイトルシークエンスを作ってみて、どこを取り上げようか、ここを取り上げる事で、物語の伝わり方が変わるんじゃないかと驚いたです。

人に感想を伝える、思、た通りに、伝えられて良かったです。

他の人のタイトルシークエンスをみると、自分と全然違う所を取り上げて、物語の番外編で書けるようになるというタイトルシークエンスで取り上げる部分について工夫することで、内容の伝わり方が変わること気がついている。

生徒の感想⑥

感想から

タイトルシークエンスの内容を伝え合う活動を通して、伝え方について工夫していること、工夫することで伝わり方が変わることへの気づきがあることがわかった。

5 研究の成果と課題（成果○ 課題●）

- 解説文章を書く活動を通して、場面を選んだ根拠が明確になった。
 - タイトルシークエンスの作成を通して、物語の理解が深まった。
 - 他の生徒の発表を聞いて物語の読み方が変化した。
 - 活動を通すことで物語の内容について考え、理解が深まったことがわかった。今回のとりくみでは、『走れメロス』を扱い活動したが、他の文学作品でも同じように活用できるのか試していくことが必要であると考えられる。
-
- タイトルシークエンスの内容を伝えることについて工夫しようとすることができた。
 - 物語の導入についてどのように伝えれば良いか考えを深める事ができた。
 - 伝え方を工夫することで、相手への伝わり方が変化することに気がついた。
 - 他者にどのように伝えればいいのか、考えることができた。また、伝え方を工夫することで伝わり方に違いがあることに気がつけた。これからは、生徒一人ひとりが伝え合うことを目的として活動にとりくみ、今回の活動を通して学んだことを活かせる学習を展開していく必要があると考えられる。

資料

- タイトルシーケンス枠
- 生徒のタイトルシーケンス作品
- 生徒の作成した心情曲線

		タイトルシーケンス作成用紙	
		組 番 氏 名	
絵 コ ン テ		解 説 文 章	
	各コマに生徒が読みとった、内容を絵にして描いていく。		描いた絵の内容について、解説文章を書く。場面を選んだ理由や、どのような場面かが分かるようにまとめる。
			学習全体を通して、学んだこと気がついたことを中心に感想をまとめる。
感想			



絵コンテ

この場面は、二年ぶりの
友の再会ですが、その再
会には邪知暴虐の王を
除くために、メロスが友を
リメンティウスを人質に
差し出すという再会と
なってしまう。ここから
物語の中でのメロスの
心情の変化や勢いが
大きく表れてくる
展開場面だから、
この場面は、二年ぶりの
友の再会ですが、その再
会には邪知暴虐の王を
除くために、メロスが友を
リメンティウスを人質に
差し出すという再会と
なってしまう。ここから
物語の中でのメロスの
心情の変化や勢いが
大きく表れてくる
展開場面だから、
この場面は、二年ぶりの
友の再会ですが、その再
会には邪知暴虐の王を
除くために、メロスが友を
リメンティウスを人質に
差し出すという再会と
なってしまう。ここから
物語の中でのメロスの
心情の変化や勢いが
大きく表れてくる
展開場面だから、

解説文章

メロスの心情を元に抜き出したことを根拠としているのがわかる。

エンス作

二人の友情が表れている場面を選んでいる。二人の絆に焦点をあてていることがわかる。

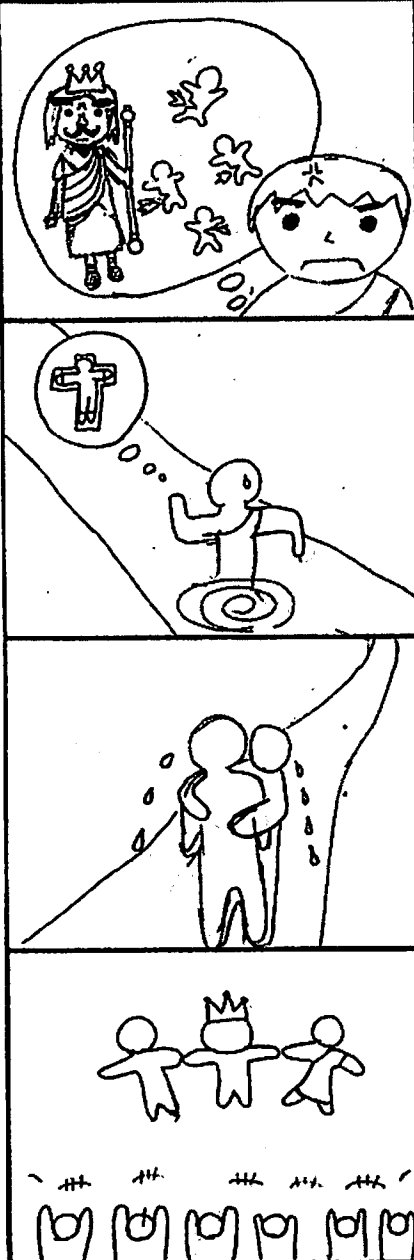
物語が動き出す場面を選びこれから起こる展開を想像させている。

セリモンティウスからの視点とすることで、物語の読みを変えている。物語の盛り上がり想像させる。

感想 私は、このタイトルシーケンスを作ることで、より一層『走れメロス』について理解を深めることができた。特に、解説文章については「どうしてこの場面を選んだのか」ということを伝えるために、場面の説明に加えて、自分なりの場面の解釈を考えてみることでできた。また他の人のタイトルシーケンスを見ると、とても詳しく説明されていてわかりやすいと思えた。同じものは一つなくておもしろかった。みんなこの『走れメロス』に対しての視点が違っていてこれからもしタイトルシーケンスを作るときはもと場面を詳しく説明して自分の感想なども交えて作りたいと思う。感想を伝えるときは、要点をまとめて特に印象に残った所を伝えることができた。

タイトルシーケンスの作成を通して、『走れメロス』について理解を深めている。また、解説文章を使いどのように相手に伝えるのか工夫しようとしているのがわかる。他の生徒との交流の中で、物語に対する見方が広がっている。

絵コンテ



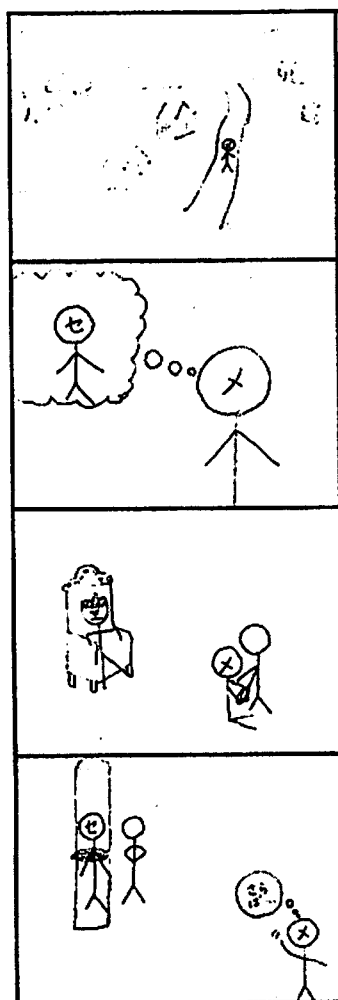
二人の信頼が、王の考えを変えた場面を選んでいる。読みが一貫して、二人の信頼に重点が置かれていることがわかる。

王は、罪のないくこんな人 を殺す。それを、知た、邪悪 に對して人二倍に敏感なメ ロスは、王に敏感した。敏 したメロスは、城に乗りこんだ が、いろいろあつて、無二の友 人の、セリヌニ、ウスが、メ スリ身代わりになつてしまふ。 友のために、メロスは、走り出す。 王に、敏感し、城に乗りこんで、 敏感の友人のために走り出す場面。	自分の変わりに王につかま る友のために、メロスが走る 場面。回、悪い夢をみてあ きらめようとしたけれど、 最後まであきらめずに走 つた所がいい。メロスのかわり につかま、てゐる友も、メス スを少し疑、てしまつた。セリ ヌリまで、メロスの事を信じて いた所がいい。お互いを信 じてゐる所がいい。	友と抱き合う場面。互 いに疑、てしまつた時もある。 けれど、セリヌリまで、お互い 信じてあつて、会つた時、感動 するの、が、良い。また、自分 が、あきらめようとした事 疑、た事も、お互い、王に 言、つて、取り合、た所も お互いを心の底から信 じていたからこそできる事 だと思ふ。	王とメロスが、今、かり合、う場 面。王は、人を信じる事 ができなかつた。メ ロスと友の、姿を見て、考 え方を改め、人を信、じよ うとする。メロスと友と王 で、仲間になる。メロスと 友の行動が、王の考えを 変えた。人の考えを 変えるなんてすごいと 感じました。
--	---	--	--

感想

タイトルシーエンスを、作。めて、物語から場面を抜き出すのは簡単だったけれど、解説文章を書くのは難しいと思いました。それに、解説文章を書いて、改めて、何で自分はこの場面を選んだのか、が、明確になりました。あと、班で読め合うのもおもしろいと思いました。各、選が場面のちがって、選んだ理由もちがうので、読んでみて、百のいろいろな意見などが、知れて良かったです。

解説文章を書く中で、場面を選ぶ理由について考えることができた。そのことで選択の根拠が明確になった。他の生徒の作品を読むことで、選ぶ場面の違い、選んだ理由の違いを知った。そのことでいろいろな意見があることに気がつくことができた。



絵コンテ

解説文章

物語の冒頭と作品のイメージを伝えようと、工夫している。

セリヌンティウスという友人を思い起こさせることで、友人の存在を伝えている。

物語の冒頭部分を描き、
タイトルと関連付け、印象を強めている。

物語が始まり大きく動き出す場面を選んでいる。これから起こることへの期待と盛り上がりを伝えようとしている。

【附註】

純語でどう始ま、たかを詳しくしたか、たので、物語の始まりを省いたわけ、この最初の重要な場面を読み手にどう説明しようかととても悩んだ。他の人のを見ると他の人は物語の始めから終わりまでを書き、それをわかりやすく説明されていて、すごいなと思った。

物語の紹介をするために、冒頭部分を詳しく描いて工夫しようとしているのがわかる。他の生徒の作品を読み、伝え方に関しいろいろな方法があることに感心を持っているのがわかる。

